

日本社会人バスケットボール連盟について

各都道府県版

VOL.10

2017.04.23

日本社会人バスケットボール連盟

目 次

- 1.日本社会人バスケットボール連盟について
- 2.各都道府県社会人バスケットボール連盟設立部会の設置について
- 3.設立部会の作業内容
- 4.各種大会の概要
- 5.地域リーグ/参加チームの選考について
- 6.地域リーグの運営方法
- 7.競技者の登録について
- 8.大会の認定・公認について

“バスケットボールで日本を元気にします”

「日本中でバスケットボールを楽しむ人が増え続けること、その人達がバスケットボールを楽しめる環境が充実していくこと、そしてその中から日本代表選手が生まれ日本人選手が世界で活躍すること、それが日本社会を元気にしていくこと」、こんな気持ちが込められています。単にバスケットボールという競技が盛んになるというだけでなく、競技者、指導者、審判、運営、愛好者などすべてのバスケットボールファミリーの生活が豊かになることで、その周りにいる家族や友人、地域コミュニティーなどすべての方を「元気」にするために、現状に満足することなく未来に向けてあらゆる壁を乗り越えて挑戦していきます。

ビジョン

これから2030年に向けて、日本バスケットボールが目指すべきビジョンを「強く」「広く」「社会のために」という3つのキーワードで表しました。このワードには、日本のバスケットボールが競技面だけでなく組織として成熟し、多くの仲間とともに、社会に受け入れられるスポーツに成長していきたいという思いを込めています。

目標

ビジョンを実現していくための目標にはJBA100周年となる2030年までに私たちが特に推進していくべき項目を掲げました。目標を、定量的で具体的に設定することにより、今後、バスケットボールファミリーが進むべき方向、達成すべき内容が明確になり、それがこれまで以上に日本バスケットボールの成長スピードを高めていくことを可能にする、と考えています。

競技者・エンジョイ・3×3人口の拡充

「JAPAN BASKETBALL STANDARD 2016」ではバスケットボールファミリーとして取り組むべきミッション中に、「競技者・エンジョイ・3×3人口の拡充」が設定され、アクションプランの「登録制度・大会環境の整備／リーグ文化の醸成」を実現するために「社会人カテゴリー活性化推進会議」が設置され、今後の競技環境含めた改革が行われることになりました。

業務目標

2020年の目標

- 全都道府県で全カテゴリーのリーグ戦を実施する

2024年の目標

- 特定カテゴリーの全国リーグ・ブロックリーグの創設
(ピラミッド型リーグ構造の完成)

業務プラン

Road to 2020

- ①大会開催に関わる権利・体制・手続きの整理
 - ・権利(主催権、主管権等)の概念の整理と運用の整備
 - ・JBA内の競技に関する所管の整理
- ②登録制度の再整備
 - ・現行登録制度の検証・再設計
- ③都道府県内でのリーグ戦化の推進
 - ・一般カテゴリー
 - ・シニアカテゴリー
- ④競技者(登録者)拡大施策
 - ・大会要項の再設計(参加要件の緩和等)
 - ・JBA未登録市区郡町村登録者の取込み
- ⑤クラブチームの活動の場の確保
- ⑥地域クラブの創設支援
 - ・総合型地域スポーツクラブへのバスケのメニュー化促進

Road to 2024

- ①特定カテゴリーの全国リーグ・ブロックリーグの創設
 - ・一般カテゴリー
 - ・U-18カテゴリー
 - ・U-15カテゴリー
- ②都道府県内でのリーグ戦化の一層の推進
- ③競技者(登録者)拡大施策
- ④クラブチームの社会人選手権の創設

1.日本社会人バスケットボール連盟について

「社会人カテゴリー活性化」の必要性について

中学卒業後、高校・高専などの登録者を除く社会に出た人々すべてが「社会人カテゴリー」の対象となる人々であり、その人々が、バスケットボールというスポーツに、就学時代に親しんできた経験があるならば、そこには多種多様なニーズが存在します。

いま、少子高齢化が急激に進む社会の中で、スポーツを問わず、様々な企業や組織、団体が、今後の成長性の見出し方を問われており、「社会人カテゴリー」の人々のニーズを的確に捉え、如何にそのニーズに応えていくか、ということは、バスケットボールの日本における更なる発展を考える上でも、重要な課題の一つとなります。

この課題を克服し、日本のバスケットボール界の発展、成長を目指していくためには、より大きく、より広範囲にわたってさまざまな状況に対応できる強力な組織体制が必要になると考えられます。

そして、その実現のためには、これまで各連盟が積み上げてきた実績と経験を基に、一致団結した「社会人」という組織を構成し、これからの時代に対応していける基盤を作り上げることこそが必要となります。

時代の変化に対応したバスケットボールの普及施策の改革の必要性

- ◇更に進む“超高齢化社会”
- ◇更に進む“ジュニア、ユース世代の人口減（超少子化）”
- ◇“生涯スポーツ”としてのバスケットボールの普及の在り方の模索

JBAガバナンス改革による将来に向けた組織拡大と機能強化の必要性

- ◇“底辺市場”の拡大（⇒競技者登録人数の拡大）
- ◇“事業収益”の拡大（⇒競技発展のための財源の確保）

「社会人カテゴリー」に見る新たな市場機会

- ◇バスケットボールを楽しんでプレーする機会をより多く創出する
※自由に、気軽に、そして楽しく、バスケットボールを続けていきたい
- ◇OB・OG層が再びプレーする機会を提供する
※また昔の仲間たちと、楽しくバスケットボールがやりたい……
- ◇幅広い世代がバスケットボールに親しめる機会を創出する
※何歳になっても同世代の人たちとバスケットボールを通じて交流したい

1.日本社会人バスケットボール連盟について

日本社会人バスケットボール連盟の設立について

2015年7月ガバナンス改革委員会+JBA・JPBL将来構想委員会が設置され、「社会人カテゴリー活性化推進会議」において社会人カテゴリーの改編について検討が行われてきました。

この会議の中で社会人カテゴリーの競技環境整備が再編されることとなりBリーグ/WJBLを頂点とするピラミッド構造確立のため、社会人カテゴリーの4連盟を(実業団連盟・クラブ連盟・教員連盟・家庭婦人連盟)を統一し、**Bリーグ/WJBLを頂点とするピラミッド型の組織運営の整備**、全国どこでもバスケットボールが**年間を通じて行える環境の整備(リーグ戦の実施)**、生涯スポーツとしての**年齢や性別に関係無くバスケットボールができる環境の整備**の3つの柱を目的とした競技環境整備の方針が決まりました。

また、今までは各都道府県で異なっていたバスケットボール環境を統一することで全国のバスケットボールに関わる競技者が公平にバスケットボールができる環境を整備し、バスケットボールがやりたいと思った時にいつでもどこでもできる環境を作り出すことによって競技者人口の増加を狙い、一生を通じてバスケットボールができる環境を企画・運営するために4連盟を統合した「日本社会人バスケットボール連盟」を設立する事となりました。

一般社団法人 日本社会人バスケットボール連盟

Japan Society Basketball Federation(略称JSB)

Bリーグ/WJBLを頂点とするピラミッド型の組織運営の整備

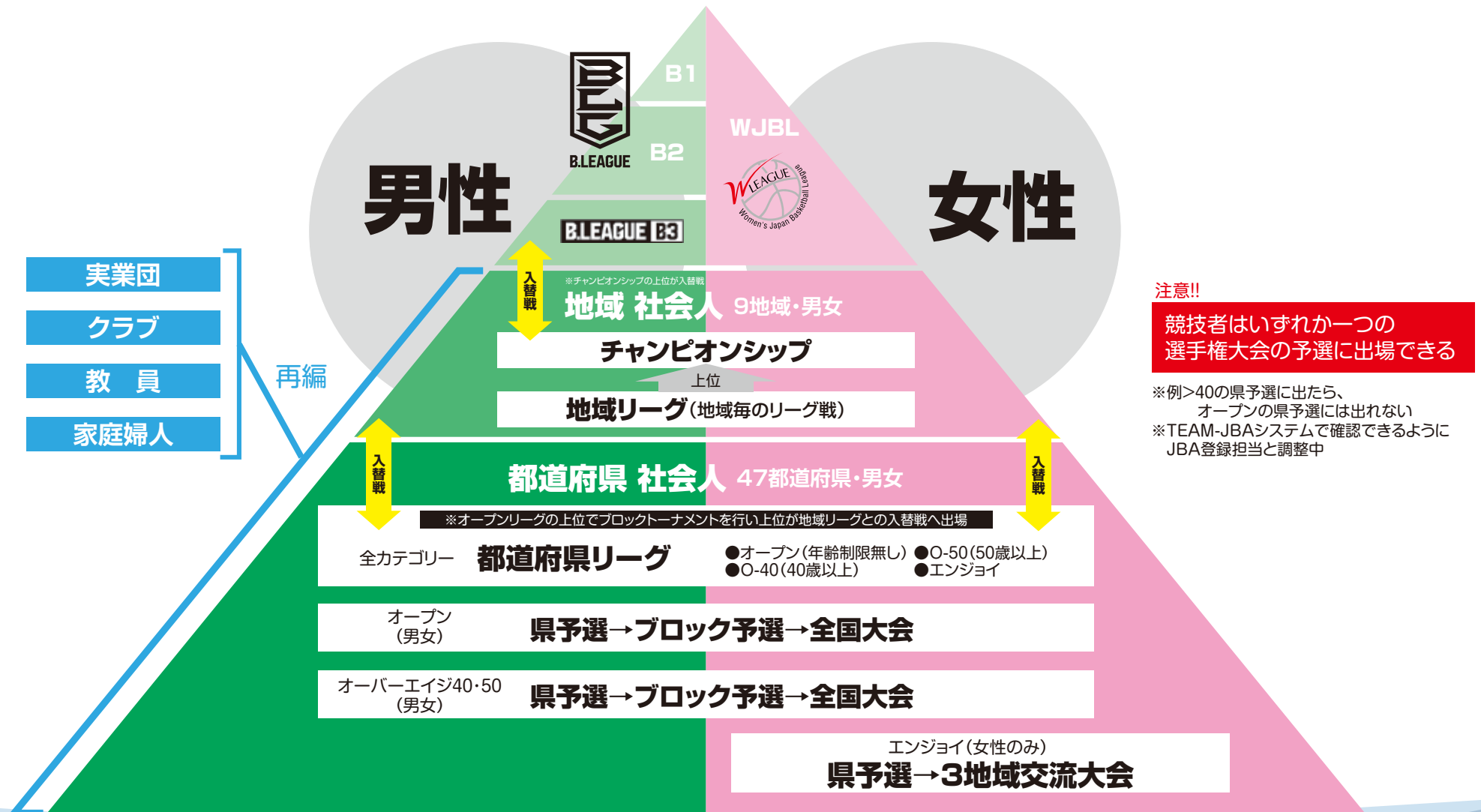
全国どこでもバスケットボールが年間を通じて行える環境の整備(リーグ戦の実施)

生涯スポーツとしての年齢や性別に関係無くバスケットボールができる環境の整備

1.日本社会人バスケットボール連盟について

各種大会とピラミッドの関係

各カテゴリーのリーグとの入替戦を行いながらBリーグ/WJBLを頂点とするピラミッド構成の大会を運営します。
また同時に生涯スポーツとしての環境の提供・運営を行います。



1.日本社会人バスケットボール連盟について

バスケットボール環境の整備

日本社会人バスケットボール連盟では、今までのバスケットボール環境を大きく変えてしまうと、都道府県の各連盟や競技者に混乱が生じるので、バスケットボール環境の良いところを残しながら時代に合った再編を目指すこととし、大きくは「地域(ブロック)」と「各都道府県」とに分け、「地域」はアマチュア競技の更なる強化とBリーグ/WJBLを頂点とするピラミッド型構造確立を目的として大会運営を整備しました。「都道府県」は今まで4連盟で独自に行っていた大会を統合する事による大会のスリム化、連盟統合による運営の強化、さらには新設されるオーバーエイジ大会やエンジョイ大会の運営を行うことが可能となります。

地域

- 社会人選手権に出場できるレベルのチーム
- 年間を通じて地域毎のリーグ戦を開催
- 地域リーグの上位チームが出場するチャンピオンシップ(全国大会)を開催

地域
男女(16歳以上)

各都道府県

- 現在一部の都道府県で活動している「クラブリーグ」「実業団リーグ」「一般リーグ」を想定
- 年間を通じてリーグ戦を開催
- 年齢別(40歳・50歳)のリーグ戦を開催
- 女性競技者の人口拡大を目標とするレディース交流大会(3地域)を開催
- 社会人選手権の県予選・ブロック予選の開催
- 市町村大会や地区で行われている大会との連携

オープン
男女(16歳以上)

オーバーエイジ
男女(40歳以上・50歳以上)

エンジョイ
女性(16歳以上)

社会人連盟のカテゴリーは大きく4つに分かれます

地域
男女(16歳以上)

オープン
男女(16歳以上)

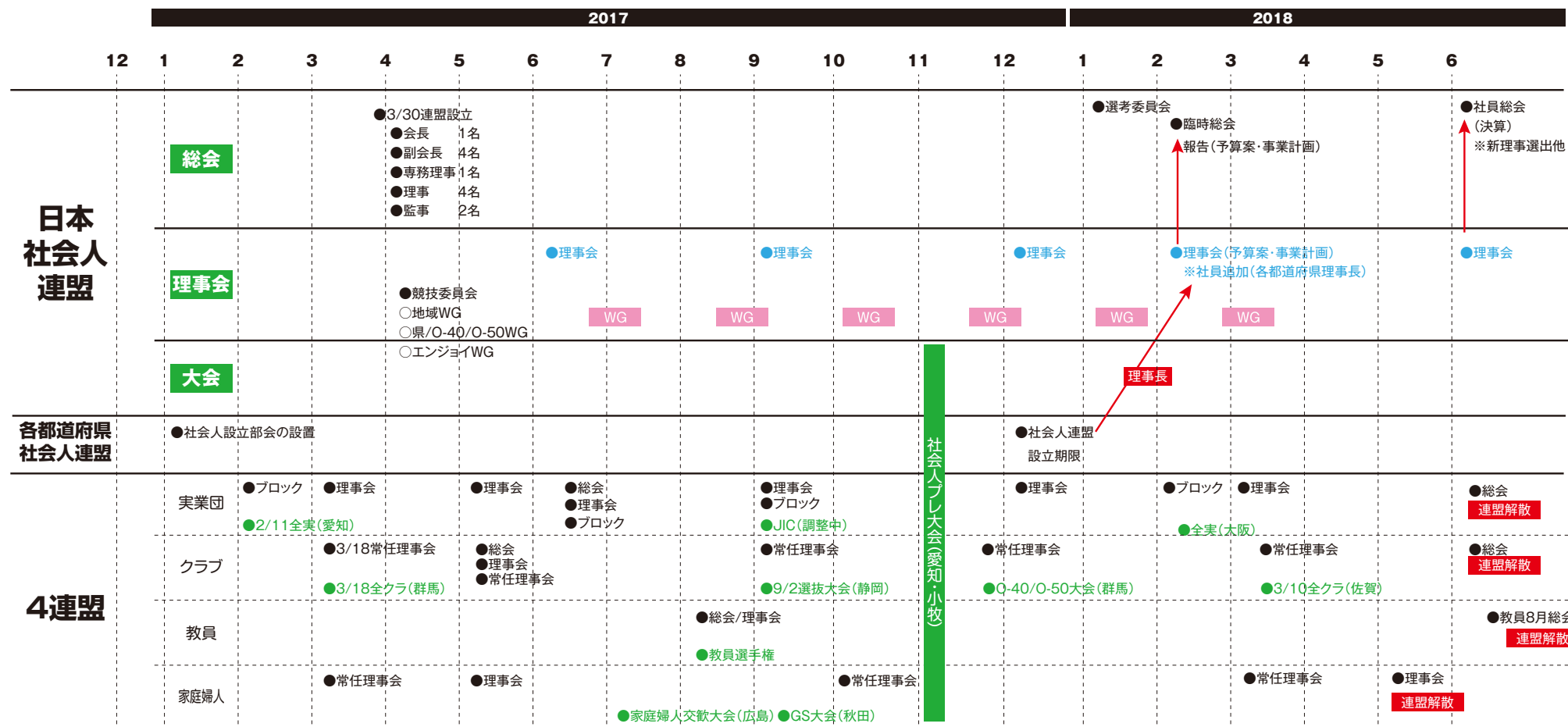
オーバーエイジ
0-40男女(40歳以上)・0-50男女(50歳以上)

エンジョイ
女性(16歳以上)

1.日本社会人バスケットボール連盟について

4連盟とJSBのスケジュール

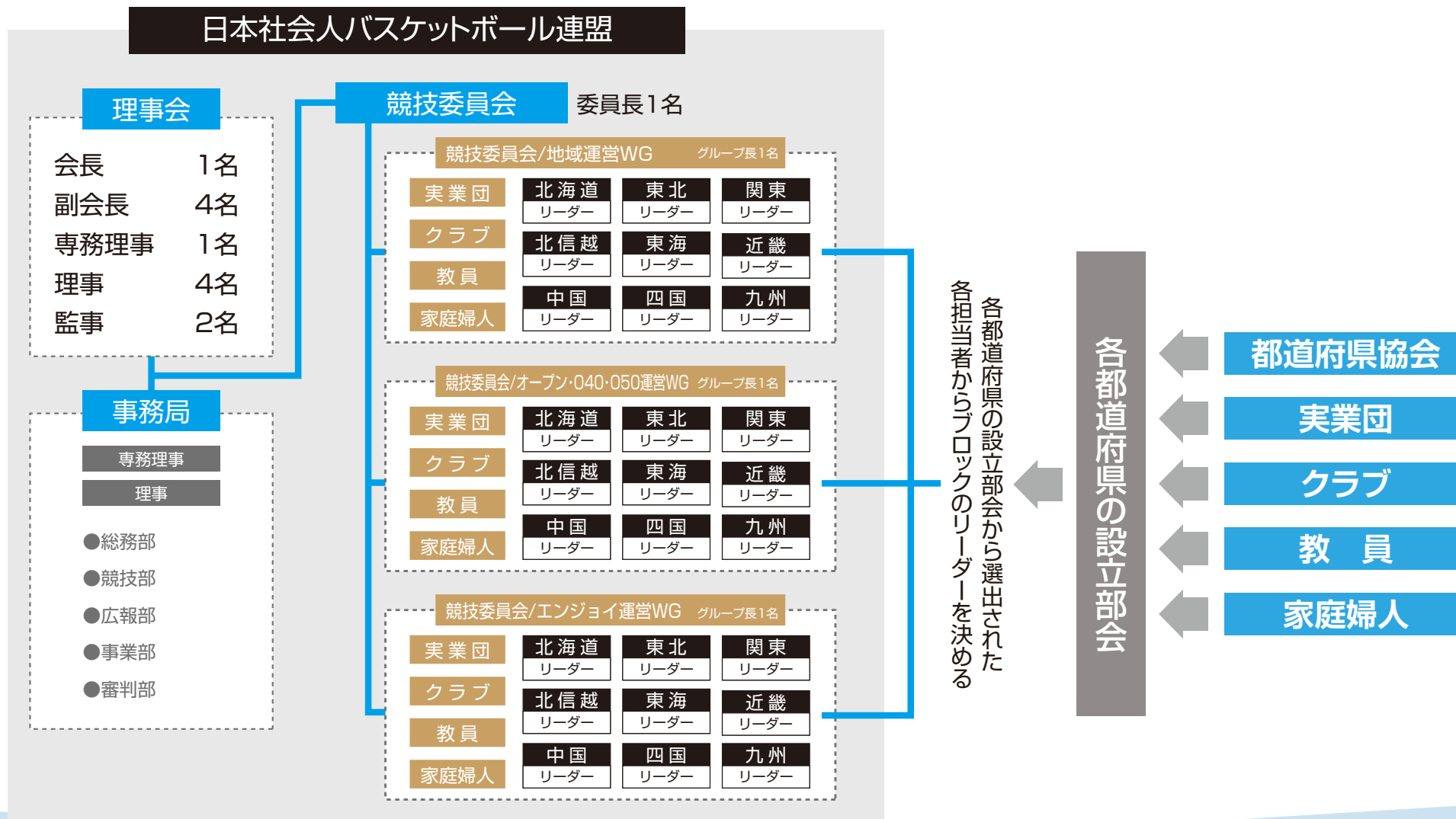
日本バスケットボール協会(以下JBA)の指導の下、2017年1月末日までに各都道府県に設立部会の設置と、12月にまでに各都道府県に社会人連盟を設立するよう通知されました。それに伴い2018年春頃に4連盟は解散します。また2017年3月30日付けで日本社会人バスケットボール連盟が設立されます。



1.日本社会人バスケットボール連盟について

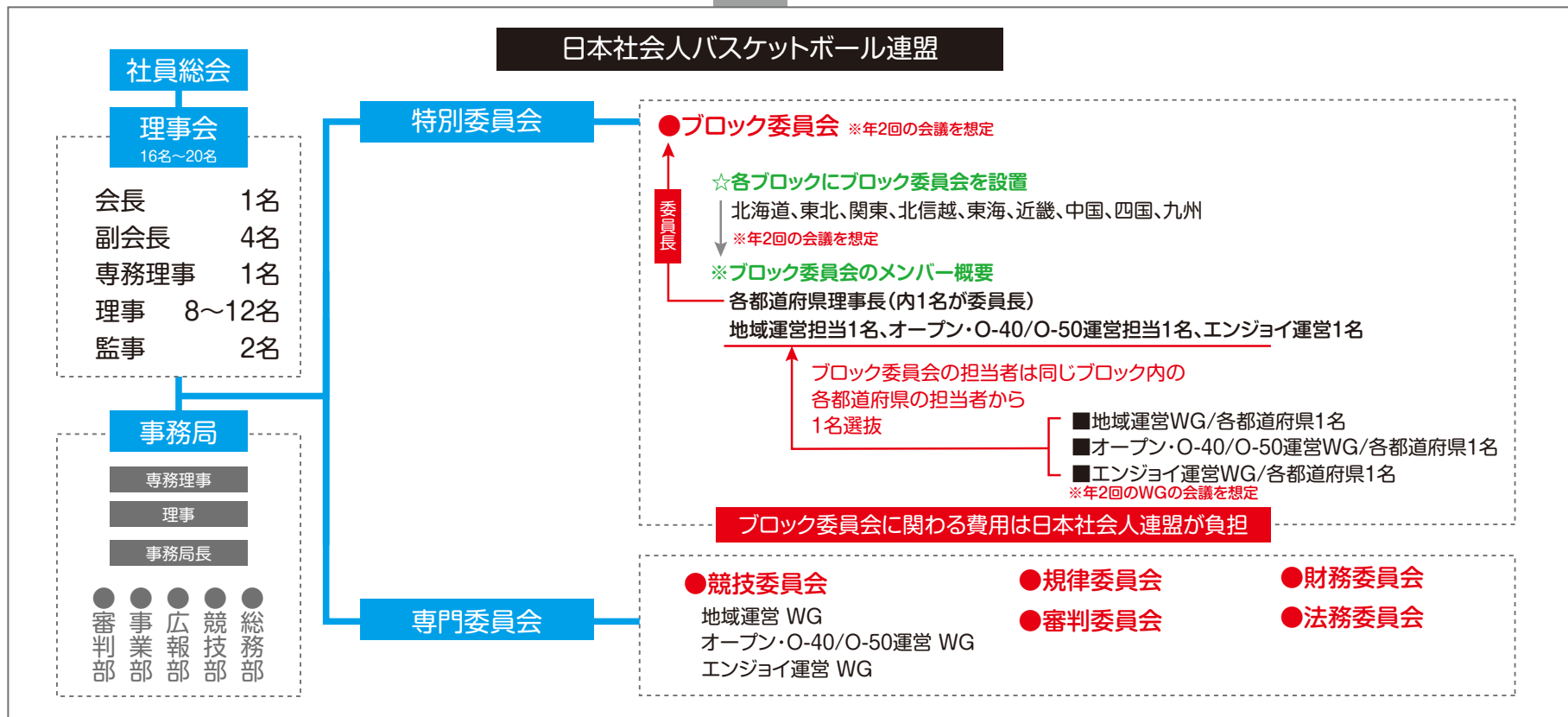
2017年度の組織について

2017年度は既存4連盟から選出されたメンバーと競技委員会の各WGによって企画・運営します。



1.日本社会人バスケットボール連盟について

2018年度からの組織について



各都道府県連盟

2.各都道府県社会人バスケットボール連盟設立部会の設置について

各都道府県社会人バスケットボール連盟設立部会の設置について

JBA改革推進室の指導の下、各都道府県に社会人バスケットボール連盟設立部会の設置が通知されました。

設立部会では2018年度にスムーズな運営を行うためにJSBと情報を共有し、チームおよび競技者に新しいバスケットボール環境へスムーズに移行してもらうための準備を行います。また各担当者がブロック毎の打合せ(WG)を行うことによりコンパクトで正確な情報共有ができる組織運営を目指します。

●設立部会の作業内容

- JBA改革推進室へ名簿の提出
- 担当者の選出(部会長・総務・競技・審判・財務など)
- 定款もしくは規約・規程などの作成
- 大会運営の方法の確立
- 大会予算の算出・管理
- チームへの説明
- 2018年度の会場の確保

社会人連盟設立部会が各都道府県の社会人連盟の基礎となる
2018年度からは運営は社会人連盟が行う。

社会人連盟設立部会は基本的には2017年12月までには各都道府県社会人連盟へ移行。

2.各都道府県社会人バスケットボール連盟設立部会の設置について

チームへの説明

大会の概要・競技者の登録の内容を踏まえ、チームに説明を行う。

●チームへの説明内容

- 社会人連盟の概要(成り立ち・規約・規則)
- 地域リーグ・チャンピオンシップについて
- 都道府県リーグについて(オープン男女・0-40男女・0-50男女・エンジョイ)
- 全日本社会人バスケットボール選手権大会について(県内予選・ブロック予選)
- 全日本社会人0-40/0-50バスケットボール選手権大会について(県内予選・ブロック予選)
- 日本社会人レディースバスケットボール交流大会【東・中・西地域】(県内予選)
- 競技者の登録について
- JBA・各都道府県の登録料
- 大会の運営方法と大会参加費について
- 2018年度 都道府県リーグ参加カテゴリーのチームへの意思確認
- 将来、地域リーグへの参加の有無

●チームへのヒアリング

上記の説明後、チームに2018年度のカテゴリー(オープン男女・0-40男女・0-50男女・エンジョイ)の調査を行う。
地域リーグへの参加に関してのヒアリング・公募についてはJSBが行います。

●ヒアリング後

ヒアリング後、カテゴリーのチーム数を確定させリーグ戦の運営方法を企画・調整する。
※カテゴリーのチーム数が足りない場合はオープンカテゴリーとの統合リーグを行う。

2.各都道府県社会人バスケットボール連盟設立部会の設置について

組織・担当者の選出

組織については各都道府県協会と連携・調整し、既存の4連盟を基本とした組織構成を検討願います。

JSBやブロック委員会の中にワーキンググループ(WG)を設置いたしますので組織の中に下記の担当者を必ず決めてください。

●地域運営担当者

地域リーグの運営責任者。

同ブロック内の各都道府県の地域リーグ運営担当者との連携を図り、地域リーグの運営・大会管理・調整を行う。

オープン・O-40/O-50運営担当者と連携して、入替戦の大会管理・調整を行う。

地域リーグの参加チームのB3への意思確認を行う。

●オープン・O-40/O-50運営担当者

都道府県リーグ・各種選手権の都道府県予選の運営責任者。

都道府県リーグ・各種選手権の都道府県予選の運営・大会管理・調整を行う。またブロック予選などの運営・調整を行う。

都道府県リーグの参加チームの地域リーグへの意思確認を行う。

同ブロック内の各都道府県のオープン・O-40/O-50運営担当者との連携を図り、ブロック予選の準備を行う。

エンジョイの登録数が少ない場合は、女性のオープン・O-40/O-50でリーグ戦ができるように運営・調整を行う。

●エンジョイ運営担当者

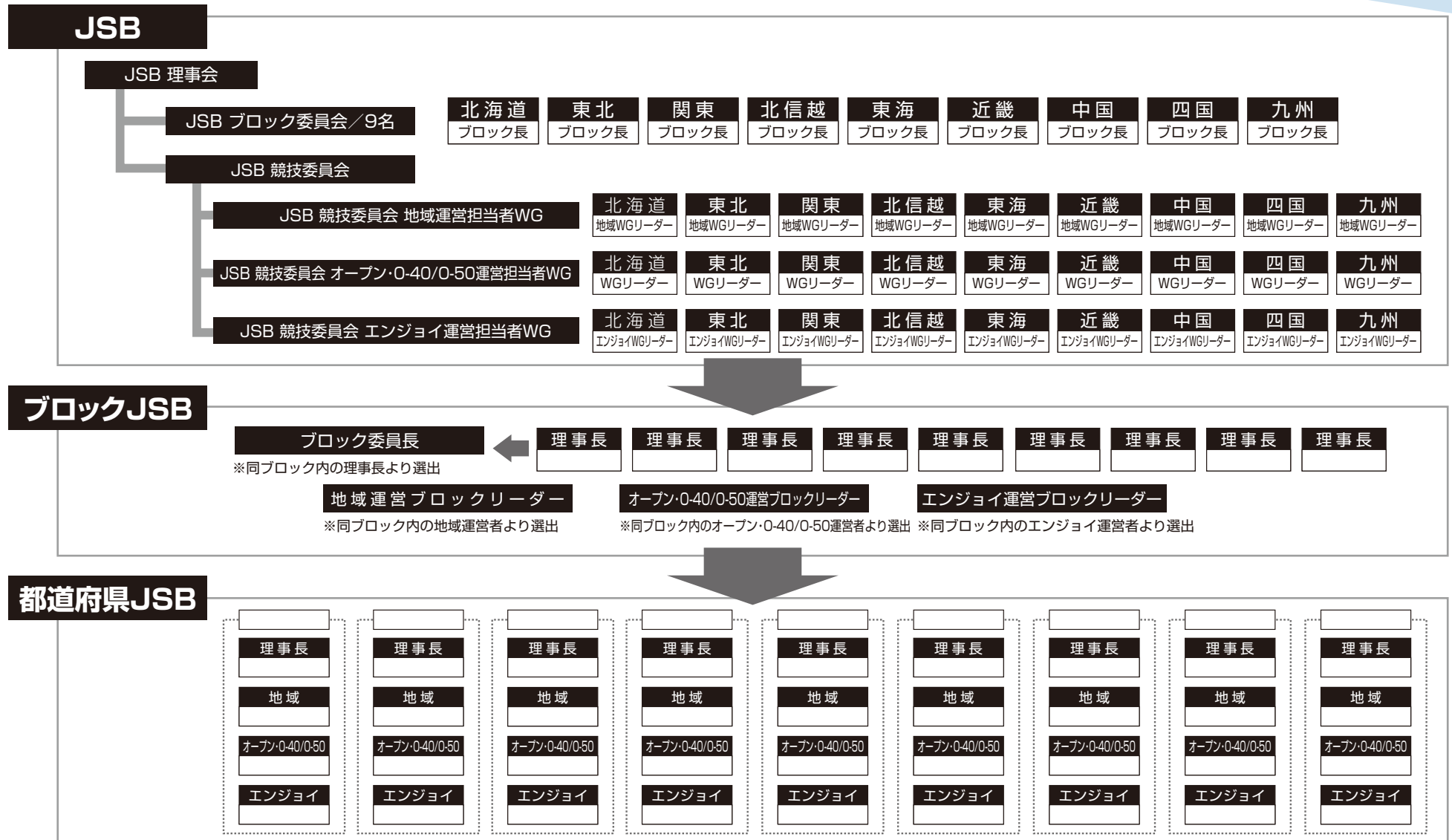
エンジョイの運営責任者。※主に日本社会人レディースバスケットボール交流大会【東・中・西地域】の県内予選の運営を行う。

日本社会人レディースバスケットボール交流大会【東・中・西地域】の運営・大会管理・調整を行う。

同ブロック内の各都道府県のエンジョイ運営担当者との連携を図る。

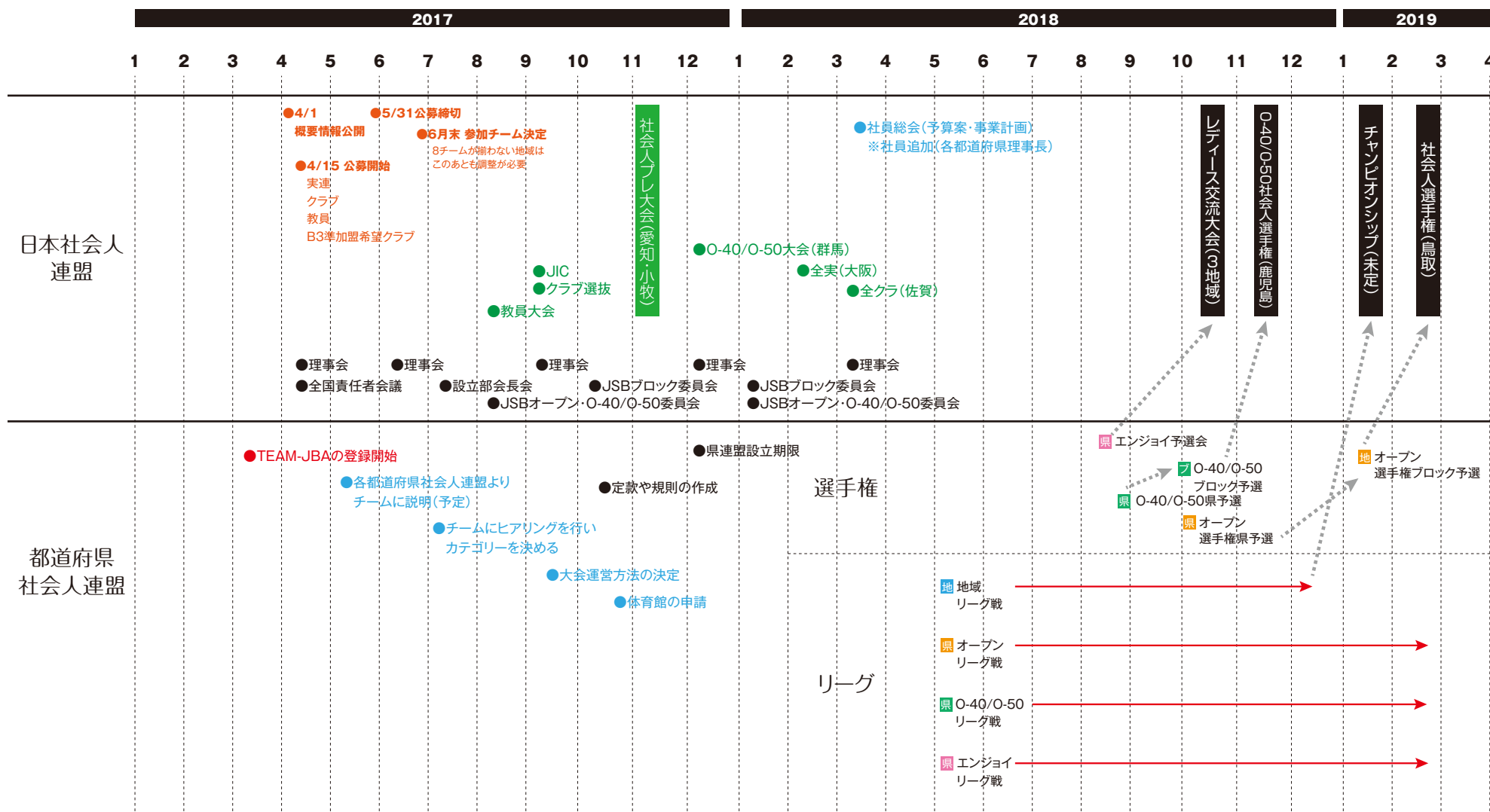
2.各都道府県社会人バスケットボール連盟設立部会の設置について

担当者とJSB(ワーキンググループ)との連携



2.各都道府県社会人バスケットボール連盟設立部会の設置について

設立のスケジュールと2018年からの競技日程



3.設立部会の作業内容

規約・規程などの作成

2017年12月各都道府県社会人バスケットボール連盟設立までに定款もしくは規約・規程を作成してください。
規約については既存の4連盟が現在運用している規約が基本になり、また各都道府県協会に合わせた、規約の作成となります。
各都道府県連盟の実情にあわせた旅費規程・定年制の導入などを作成してください。

規約の基本(JSBとして入れて欲しい内容)を提供します。

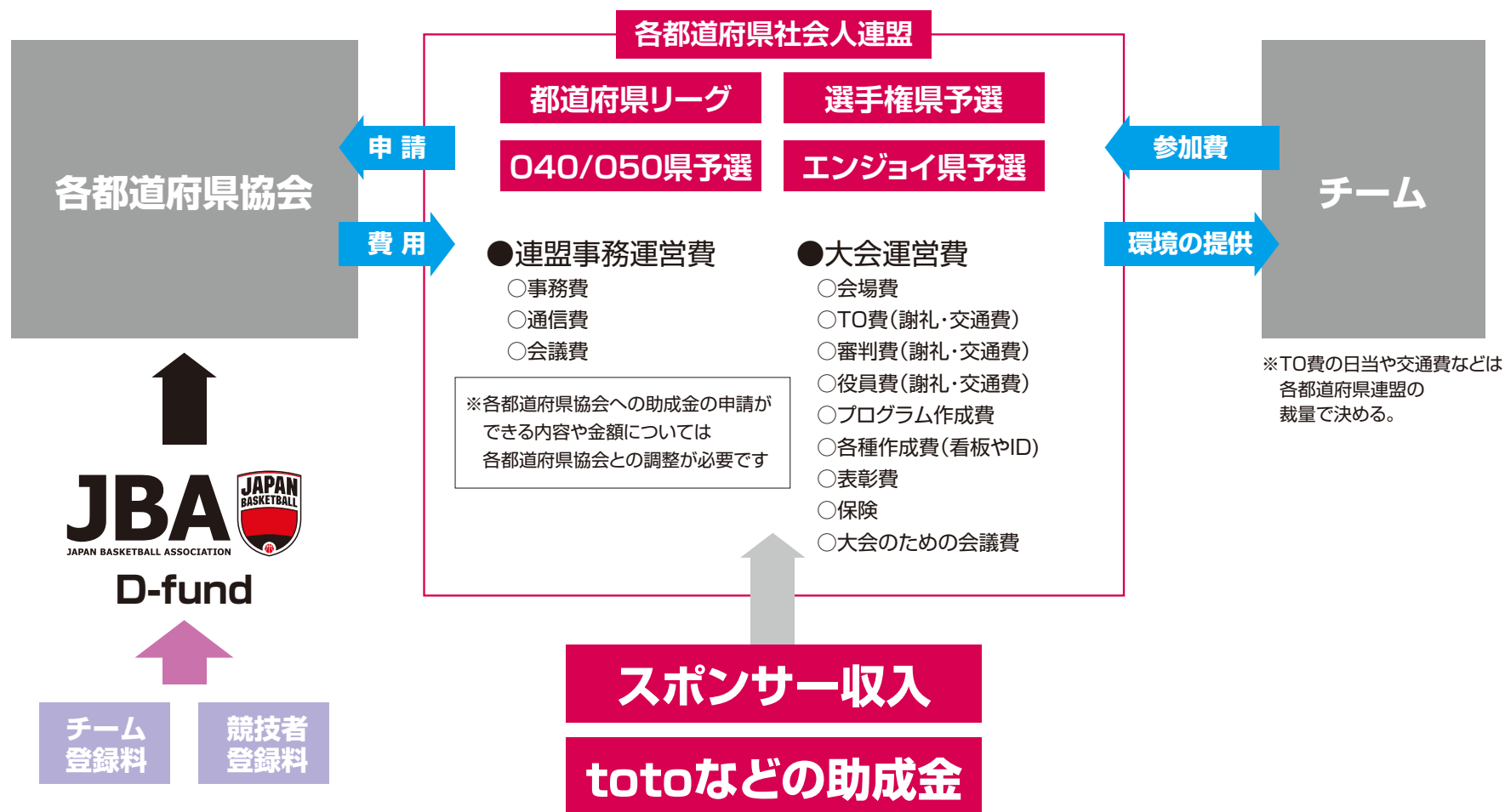
大会運営方法の企画・調整・予算の算出・管理

ヒアリング後、リーグ戦の各カテゴリーのチーム数を確定させ運営方法を企画・調整します。
各カテゴリーのおおまかなチーム数が決まると試合数が決まり体育館の必要日数・面数が見えてきます。
おおまかなスケジュールが決まると来年度の予算が算出できます。

3. 設立部会の作業内容

運営費と大会参加費について

各都道府県社会人連盟の事務運営費は各都道府県協会に助成金として申請し、大会運営費はチームへ大会参加費としてチームへ請求します。



3.設立部会の作業内容

大会参加費の算出について

大会参加費は下記の算出例によって算出してください。役員日当・審判謝礼などの金額は各都道府県連盟の裁量で決めてください。

下記の条件で行った場合(例)

- 男子48チームの1部あたり/8チームで6部 ■女子24チーム(エンジョイを含む)の1部あたり/8チームで3部 合計72チーム
- 1回総当たり1チーム7試合
- 1チームあたり選手15名で想定

リーグ戦

■男子168試合 ■女子84試合 ■入替戦7試合 合計259試合必要
1日10試合(2コート×5ゲーム)で26日間必要

1日の運営費(例)

運営役員 ¥30,000
内訳 役員日当
役員交通費

審判員 ¥60,000
内訳 審判謝礼

体育館使用料 ¥40,000
雑費(プログラム作成費など) ¥10,000
合計 ¥140,000

リーグ戦の運営費

¥140,000×26日=¥3,640,000

1チーム当たりの負担金

¥3,640,000÷72=¥50,555
1試合@¥7,222 1人@¥481

1名あたりの負担金

¥50,555÷15=¥3,370

※審判帯同制の導入でコスト減は可能。

社会人選手権 県予選

■男子72試合 ■女子36試合 合計108試合必要 12日間必要

1日の運営費(例)

運営役員 ¥30,000
内訳 役員日当
役員交通費

審判員 ¥60,000
内訳 審判謝礼

体育館使用料 ¥40,000
雑費(プログラム作成費など) ¥10,000
合計 ¥140,000

選手権の運営費

¥140,000×12日=¥1,680,000

1チーム当たりの負担金

¥1,680,000÷72=¥23,333

1名あたりの負担金

¥23,333÷15=¥1,555

※実際はO-40/O-50県予選、エンジョイ県予選に参加チームは除かれる予定

3.設立部会の作業内容

チームの経費(登録料と個人負担の関係)

チーム登録料と競技者登録料はJBAもしくは各都道府県協会の収入となるため社会人連盟は徴収できません。

登録料



3.設立部会の作業内容

地域リーグ・各ブロック予選・各全国大会・レディース交流大会【3地域】の運営費について

チャンピオンシップ、地域リーグ、全国大会(オープン・オーバーエイジ)、ブロック予選大会(オープン・オーバーエイジ)、レディース交流大会【3地域】の大会運営費はチームから参加費(全国同一金額)を徴収し、規程に沿って運営費をJSBが負担します。

■運営費(負担例)

- 会場費
- TO費(日当・交通費)
- 審判費(日当・交通費)
- 地元役員費(日当・交通費)
- プログラム作成費
- 各種作成費(看板やID)
- 本部役員費
- 表彰費
- 事務費(通信費)
- 保険

■開催地負担なるもの

- 記念グッズ作成費
- 懇親会費

運営費の負担の詳細な規程は現在JSBにて検討中

例>TOは1試合4名で2試合担当 @2,000+実費交通費

4.各種大会の概要

各カテゴリーで出場できる選手権大会

地域

正式名称 **全日本社会人バスケットボール地域リーグ チャンピオンシップ**
All Japan Society Basketball Area League Championship
俗称 **チャンピオンシップ／CHAMPIONSHIP**

オープン

正式名称 **全日本社会人バスケットボール選手権大会**
All Japan Society Basketball Championship
俗称 **社会人選手権**

オーバーエイジ

正式名称 **全日本社会人0-40バスケットボール選手権大会**
全日本社会人0-50バスケットボール選手権大会
All Japan Society Basketball Overage Championship
俗称 **オーバーエイジ／OVERAGE**

エンジョイ

正式名称 **日本社会人レディースバスケットボール交流大会(東・中・西地域)**
Japan Society Basketball Ladies Exchange Game
俗称 **レディース／LADIES**

4.各種大会の概要

社会人連盟の新大会の関係

主催	既存の大会
JBA	全日本社会人バスケットボール選手権大会
実業団	全日本実業団バスケットボール競技大会
実業団	全日本実業団バスケットボール選手権大会
クラブ	全日本クラブバスケットボール選手権大会
クラブ	全日本クラブバスケットボール選抜大会
クラブ	全日本クラブシニアバスケットボール選手権大会
教員	全日本教員バスケットボール選手権大会
家庭婦人	全国ママさんバスケットボール交歓大会



新大会
地域リーグ (全国9ブロックのリーグ戦)
全日本社会人バスケットボール地域リーグ チャンピオンシップ ※地域リーグ上位による大会
全日本社会人バスケットボール選手権大会 ※ブロック予選上位による大会
全日本社会人0-40/0-50バスケットボール選手権大会 ※男女で選手権化(予選義務)
日本社会人レディースバスケットボール交流大会【東・中・西地域】 ※全国交歓大会から3地域へ
都道府県リーグ

2017年度のみ 全日本社会人バスケットボールプレ大会を開催

※11月4日・5日で愛知県小牧市開催

4.各種大会の概要

I.地域リーグとチャンピオンシップ

日本を9ブロックに分け各都道府県の上位男女チームによる、リーグ戦を行う。

リーグ戦とチャンピオンシップを行い、チャンピオンシップの男子の上位チームはB3との入替戦を行う。

また、入替戦には別途「B3準加盟クラブライセンス」が必要となります。

女子のWJBLとの入替は、将来的に入替戦を実施する方向で、今後検討していきます。

入会金 金額は今後決定。

リーグ戦

期 間 6月～12月末日を予定

試合方式 各チーム最低6試合できるように企画する

試合予定 週末土日で2試合を予定

大会参加費 詳細な金額は、参加チーム決定後金額を決めます

外国籍競技者ルール 男性／外国人籍登録2名オンザコート1名

主管権譲渡費 主管権を買取、ホームコートでの試合もできる
ただし、他のリーグ戦も行うこと。

チャンピオンシップ

期 間 毎年2月中旬を予定

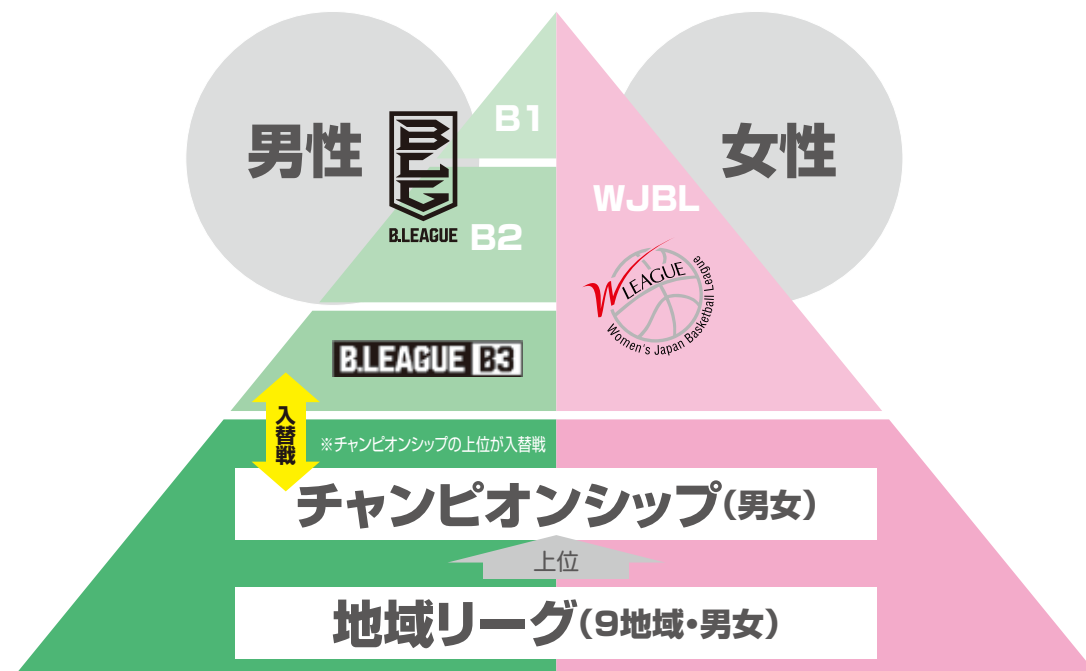
大会参加費 100,000円

外国籍競技者ルール 男性／外国人籍登録2名オンザコート1名

入替戦

都道府県リーグとの入替戦 毎年3月下旬を予定
男性／外国人籍登録2名オンザコート1名
その他は地域リーグのルールを適用

B3との入替戦 毎年5月下旬を予定
B3リーグのルールを適用
※今後は自動昇降格の実施検討
※B3との入替戦の出場チーム数は毎年6月頃決める予定。



I.地域リーグとチャンピオンシップ

地域リーグについて

- 期 間 6月～12月末日を予定
- 参 加 チ ーム 各地域男子4チーム以上16チーム以下、女子3チーム以上8チーム以下
- 試 合 方 式 各チーム最低6試合できるように運営する。
- 試 合 予 定 週末土日で2試合を予定※リーグ戦の運営方法によって変わります。
- 大 会 参 加 費 詳細な金額は、参加チーム決定後金額を決めます。
- ベ ン チ 登 録 部長、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めスタッフ7名以内、選手16名以内の合計23名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはC級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 外国人籍登録2名オンザコート1名。
- 主 管 権 譲 渡 費 主管権を買取、ホームコートでの試合もできるただし、他チームのリーグ戦も行うこと。
- B 3 入 替 戦 B3の参入希望チームは6月末までに参加意思表明書をもってJSBへ提出すること。

オプション

参加チームが**男子は3チーム以下、女子は2チーム以下**の場合は隣接する地域と合同でリーグ戦を行う。
参加チームが男子は4チーム以上、女子は3チーム以上になった時に単独地域リーグを行う。

4.各種大会の概要

I.地域リーグとチャンピオンシップ

地域リーグの運営方法について

基本

1部 / 8チーム
1回総当たり1チーム7試合

- 1チーム年間最低6試合出来るリーグ戦を行う
- ブロックに試合方式を検討してもらい、ブロックの環境に合ったリーグ戦を行う
- 地域リーグの全チームにチャンピオンシップに出場する権利があるリーグ戦を行う

8チームで実施できない地域があると考えられるので下記の応用での開催を検討する

地域で8チーム以下の参加数の時の特別処置

1部 / 4チーム
●2回総当たり1チーム6試合

1部 / 5チーム
●2回総当たり1チーム8試合

1部 / 6チーム
●2回総当たり1チーム10試合

1部 / 7チーム
●1回総当たり1チーム6試合

地域8チームが集まらない地域は新規参加チームでも社会人連盟の承認後、初年度から地域リーグに参加できる特別処置を検討

地域で9チーム以上の参加数の時

1部A / 5チーム
1部B / 5チーム
●2回総当たり1チーム8試合

1部A / 6チーム
1部B / 6チーム
●2回総当たり1チーム10試合

1部A / 8チーム
1部B / 8チーム
●1回総当たり1チーム7試合

ブロック内の地域リーグを2部制で行い、チャンピオンシップ出場枠数によっては決定戦を行う。

I.地域リーグとチャンピオンシップ

チャンピオンシップについて

- **期 間** 毎年2月中旬を予定。
- **参 加 チ ー ム** 男子32チーム、女子16チーム ※参加チーム数に関しては検討中。
- **試 合 方 式** (1)男子は1ブロック4チーム編成とし、A～Hの8ブロックに分かれ、2日間で予選リーグを行う。
(2)女子は1ブロック4チーム編成とし、W～Zの4ブロックに分かれ、3日間で予選リーグを行う。
(3)男女共各ブロックの1位チームにより、決勝トーナメントを行う。
(4)男女とも3位決定戦は行わない。
- **試 合 日 数** 4日間
- **予 選 方 法** (1)チームの順位は勝点によって決定する。(勝点2点、敗者1点、棄権0点)
(2)2チームが同じ勝点の場合は、両チームの対戦で勝ったチームを上位とする。
(3)3チームが同じ勝点の場合は、同点チーム間で行われた試合のみを考慮した得失点差(得点-失点)の高いチームを上位とする。
- **大 会 参 加 費** 100,000円。
- **ベンチ登録** 部長、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めスタッフ7名以内、選手16名以内の合計23名以内とします。
- **JBA公認コーチ** 指揮を執るコーチはC級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- **外国籍競技者ルール** 外国人籍登録2名オンザコート1名。
- **B 3 入 替 戦** B3との入替戦を希望しないチームが入替戦の権利を得ても、次点のチームへの譲渡はできません。

4.各種大会の概要

II.都道府県リーグ

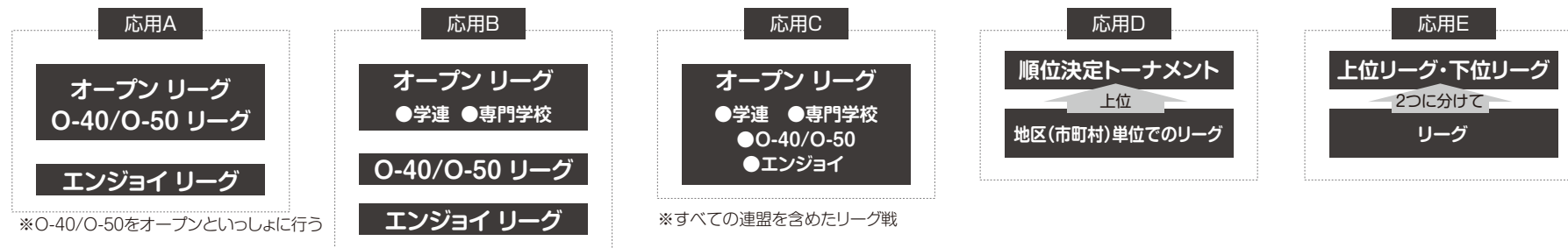
都道府県リーグについて

- 期 間 6月～翌年2月末日を予定
- 試合方式 リーグ戦(1チーム年間6試合程度出来るリーグ戦を目標とする)。
- カテゴリー オープン男女、O-40男女、O-50男女、エンジョイ。
- 大会参加費 各都道府県連盟で参加チーム決定後金額を決めます。
- ベンチ登録 部長、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めスタッフ6名以内、選手16名以内の合計22名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはE-1級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 制限無し。
- 地域入替戦 地域リーグの参入希望チームは6月末までに参加意思表明書をもって各都道府県連盟へ提出すること。
地域リーグ参加意思のあるチームのみで地域リーグとの入替戦のためのブロック予選を行う。
地域リーグ参加意思の無いチームが都道府県リーグで上位になっても参加希望チームの繰り上げは推薦はできません。

オプション

●各都道府県の事情により下記のような他のカテゴリーのチームを取り込んでリーグ戦を行うことも可能

※大学の同好会などは学連の登録ではなく社会人連盟に登録する



※O-40/O-50をオープンといっしょに行う

※すべての連盟を含めたリーグ戦

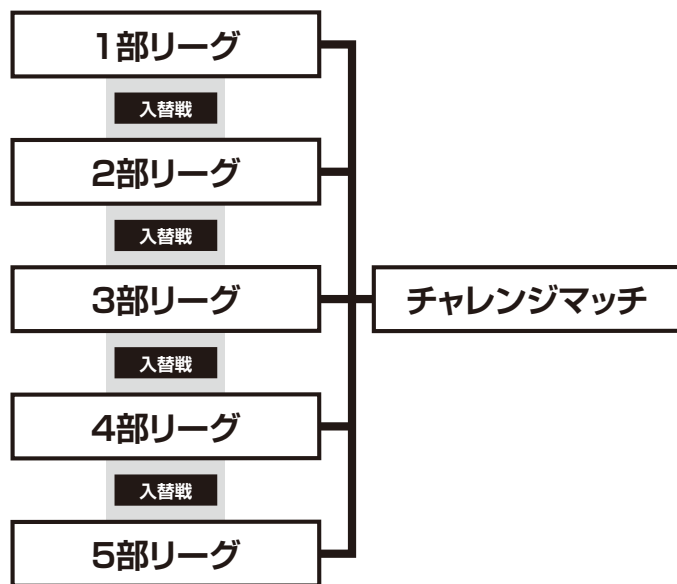
※学連や専門連盟に登録のチームを含んだリーグ戦
ただし学連や専門連盟のチームは社会人選手権には出られない。

II.都道府県リーグ

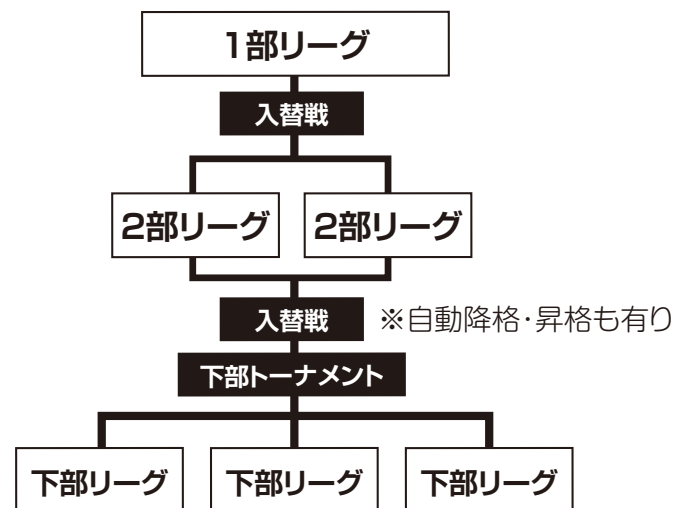
都道府県リーグについて

新規チームで地域リーグへ参加希望する場合、3年以内に地域リーグへ行けるリーグ戦のシステムを構築する

例:ストレート型



例:並列型



Ⅲ.全日本社会人バスケットボール選手権大会

全日本社会人バスケットボール選手権大会／県予選について

- 期 間 8月～12月末日までに開催。
- 試合方式 オープン男女全チームによるトーナメント方式。
- 大会参加費 詳細な金額は、参加チーム決定後金額を決めます。
- ベンチ登録 部長、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めスタッフ6名以内、選手16名以内の合計22名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはE-1級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 制限無し。
- 参加資格 TEAM-JBAのオープンに登録されたチームでそのチームに登録された競技者。

全日本社会人バスケットボール選手権大会／ブロック予選について

- 期 間 翌年1月末日までに開催。
- 試合方式 各都道府県の予選を勝ちに抜いたチームによるトーナメント方式。 ※試合方式・参加チームの確定方法については各ブロックにより決めてください。
- 大会参加費 30,000円。
- ベンチ登録 部長、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めスタッフ6名以内、選手16名以内の合計22名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはD級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 制限無し。

全日本社会人バスケットボール選手権大会／社会人選手権について

- 期 間 翌年3月2週目に開催。
- 試合方式 男女各32チーム。ブロックの予選を勝ちに抜いたチームによるトーナメント方式。
- 大会参加費 30,000円。
- ベンチ登録 部長、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めスタッフ6名以内、選手16名以内の合計22名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはD級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 制限無し。

IV.全日本社会人0-40/0-50バスケットボール選手権大会

全日本社会人0-40/0-50バスケットボール選手権大会／県予選について

- 期 間 9月2週目までに開催。
- 試合方式 0-40/0-50男女全チームによるトーナメント方式。
- 大会参加費 詳細な金額は、参加チーム決定後金額を決めます。
- ベンチ登録 部長、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めスタッフ6名以内、選手16名以内の合計22名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはE-1級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 制限無し。
- 参加資格 TEAM-JBAのオーバーエイジに登録されたチームでそのチームに登録された競技者。**※選抜チームは認められません。**

全日本社会人0-40/0-50バスケットボール選手権大会／ブロック予選について

- 期 間 10月2週目までに開催。
- 試合方式 0-40男女各2チーム、0-50男女各1チーム／各都道府県の予選を勝ちに抜いたチームによるトーナメント方式。
※ブロック予選は必ず実施すること。出場チームが少ない場合でも順位決定を行う。
- 大会参加費 30,000円予定。
- ベンチ登録 部長、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めスタッフ6名以内、選手16名以内の合計22名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはD級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 制限無し。

全日本社会人0-40/0-50バスケットボール選手権大会／社会人選手権について

- 期 間 11月3週目に開催。
- 試合方式 0-40・0-50各24チーム、女性は0-40・0-50は各16チームによるトーナメント方式。
- 大会参加費 30,000円予定。
- ベンチ登録 部長、監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めスタッフ6名以内、選手16名以内の合計22名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはD級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 制限無し。

V.日本社会人レディースバスケットボール交流大会【東・中・西地域】

日本社会人レディースバスケットボール交流大会【東・中・西地域】／県予選について

- 期 間 9月上旬までに開催。
- 試 合 方 式 トーナメント方式で試合時間は8分4ピリオド制で行う。
- 大会参加費 詳細な金額は、参加チーム決定後金額を決めます。
- ベンチ登録 監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーのスタッフ6名以内、選手16名以内の合計22名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはE-1級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 制限無し。
- 参加資格 TEAM-JBAのエンジョイに登録されたチームと、そのチームに登録された競技者。

日本社会人レディースバスケットボール交流大会【東・中・西地域】について

東地域／全32 チーム

北海道／東北／関東

中地域／全24 チーム

北信越／東海／近畿

西地域／全16 チーム

四国／中国／九州

都道府県別出場割当は前年度登録チーム数の実績により決定します。

- 期 間 10月下旬～11月上旬を予定。
- 試 合 方 式 トーナメント方式で3位決定戦・敗者戦も行い試合時間は8分4ピリオド制で行う。
- 大会参加費 30,000円。
- 参加資格 各都道府県の予選又は推薦にて出場権を得たチーム。
- ベンチ登録 監督、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーのスタッフ6名以内、選手16名以内の合計22名以内とします。
- JBA公認コーチ 指揮を執るコーチはE-1級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。
- 外国籍競技者ルール 制限無し。

2021年度に向け

ヒアリングを行いながらオープン女性・オーバーエイジ0-40/0-50女性との状況を見据えながら日本社会人レディースバスケットボール交流大会【東・中・西地域】の見直しを行います。

※予選の完全実施・順番による推薦の廃止。

※大会参加チーム数。

VI.その他

マスタース大会について

- 社会人連盟に登録された40歳以上の男女が対象となります。
- スタッフは責任者1名、監督1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、トレーナーまたはドクター1名、選手は15名以内とする。
- 各都道府県で男女各1チームの代表チームを単独、補強または選抜のいずれかの方法で推薦または選出する。
- コーチはC級以上のJBA公認コーチ資格を有すること。

全国ゴールデンシニアバスケットボール大会について

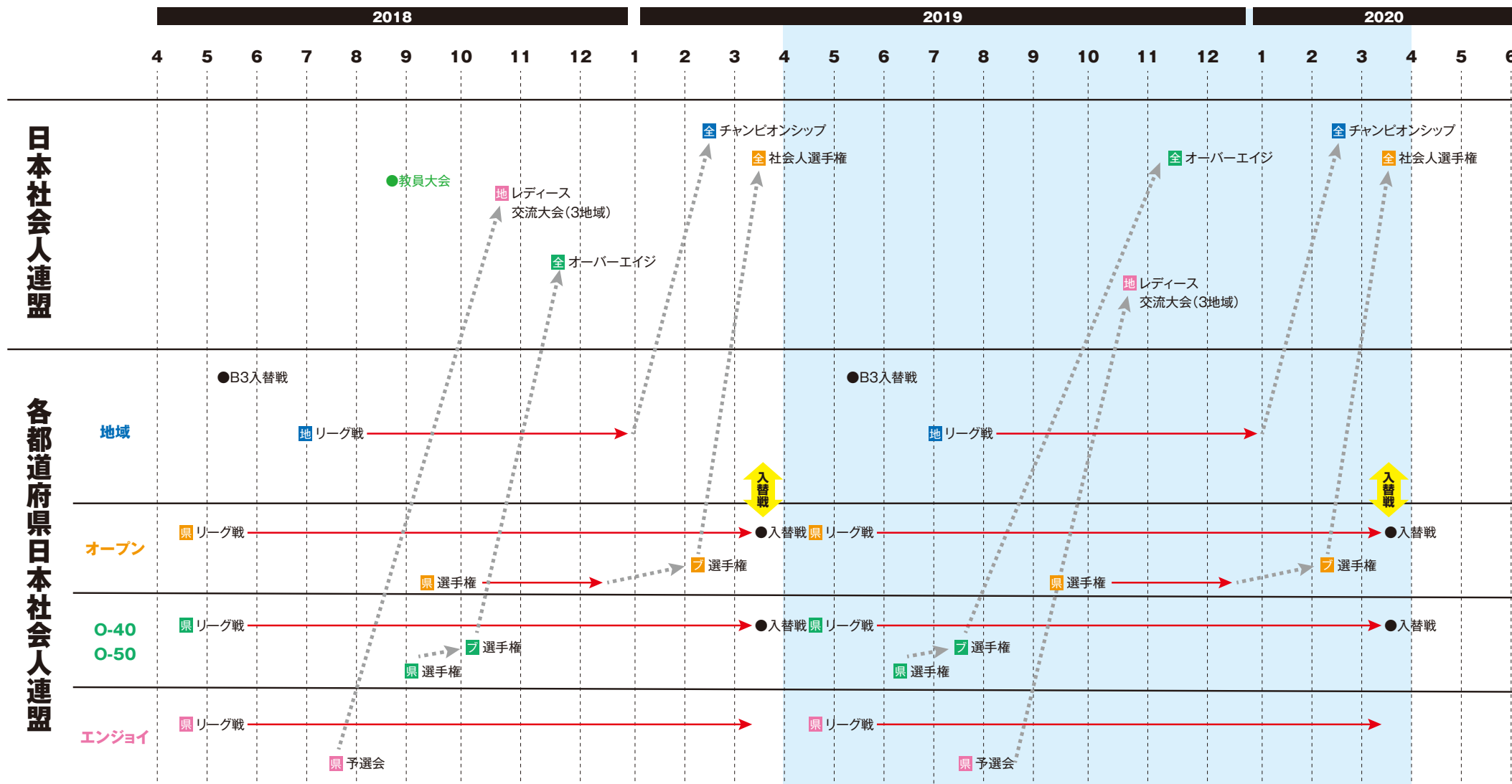
この大会には、ねんりんピック開催期間内に実施しなければならないという条件があります。
協賛イベント募集に応じた諸手続きを申請し、開催県知事の承諾により実施決定となります。

- 2018年度より社会人連盟に登録された50歳以上女性が対象となります。
- 選手10名以上であること。単独チーム・合体チームいずれも可です。
- 参加チーム総数は開催県で確保できるコート数によりますが、概ね70チーム。
- 全ての参加チームは二日間に2試合行います。

2024年度に60歳以上の男性も参加できる大会を目指す。

4.各種大会の概要

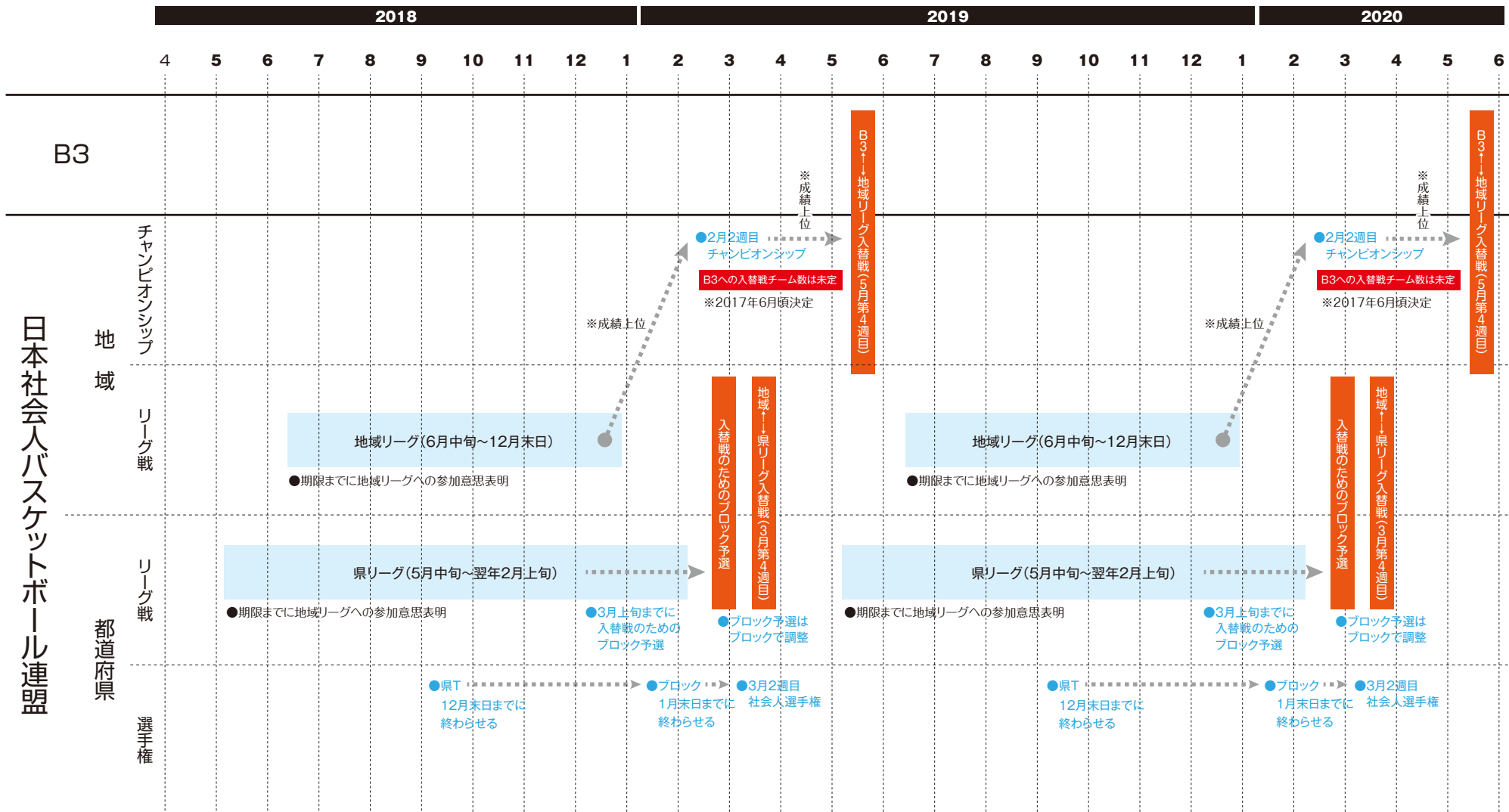
大会の全体スケジュール(移行後)



4.各種大会の概要

入替戦スケジュール(案)

下記の日程で入替戦(ブロック入替戦予選)を行います。



5.地域リーグ/参加チームの選考について

2018年度について

2017年度に4連盟に所属しているチームに公募し、JSBの選考により決定します

公募の条件

- ①公募の時点で各都道府県の4連盟いずれかにTEAM-JBAにてチーム登録が完了していること。
 - ②所属の各都道府県協会の推薦があること。
 - ③所属の各都道府県所属の4連盟のいずれかの推薦があること。
 - ④近年、ブロック大会・全国大会に出場していること。
- ※将来B3へ加盟を目標しているチームは上記を踏まえ社会人連盟がヒアリングし検討する。

2019年度以降について

2018年度より各都道府県で都道府県リーグで上位の成績を収め、ブロック予選を経て地域←→都道府県リーグ入替戦で勝利すること。

B3公募対象クラブについて

B3へ公募を希望するチームは下記が公募対象クラブとなります。

また、B3への参戦(入替戦も含む)は別途「**B3準加盟クラブライセンス**」が必要となります。

2018-19シーズン

- ①2017年11月の社会人プレ大会に出場したチーム。
 - ②2017年度各都道府県所属の4連盟のいずれかにチーム登録していること。
- ※プレ社会人大会に出場方法については各都道府県の連盟の推薦規程に準じる。

2019-20シーズン以降

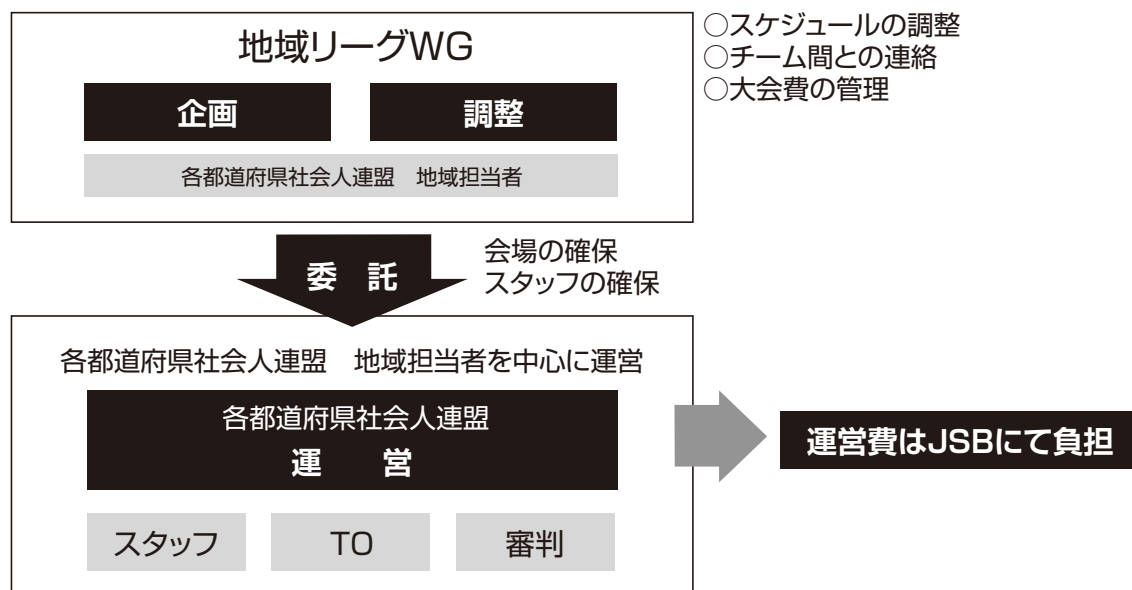
- ①毎年(2019年以降)2月に行われるの地域トーナメントで上位の成績を収めていること。

6.地域リーグの運営方法

地域リーグの運営方法

- 運営の企画・調整は「ブロック委員会の地域リーグWG」で行い、各都道府県の社会人連盟に委託する
※現状のブロック予選の運営方法と同じ。
- 大会運営費はチームから参加費(リーグ戦の形態によって地域毎に異なる)を徴収し、規程に沿って運営費をJSBが負担する
- チームが興行権を買取、ホームゲームとして開催(会場の確保)できる。
※他のリーグの試合も行うこと
※会場費などの運営費もすべて持つこと。他のチームの移動費などの経費は各チームが持つ。

地域リーグの運営フローチャート



7.競技者の登録について

競技者の登録について

○競技者の登録の大区分は「社会人連盟」となります。中区分で「地域」「オープン」「オーバーエイジ」「エンジョイ」の4クラスに分けます。

○社会人連盟では将来的に高校や大学の部活を引退した後(年度内)の競技者の受け入れを模索しています。

競技者・チーム登録と出場できる大会の関係について

	地域リーグ	チャンピオンシップ	都道府県リーグ	社会人選手権			O-40/O-50			レディース交流大会	
				県予選	ブロック	全国	県予選	ブロック	全国	県予選	3地域
地域 16歳以上の男女	○	○									
オープン 16歳以上の男女			○	○	○	○					
オーバーエイジ 40歳以上の男女			○				○	○	○		
エンジョイ 16歳以上の女性			○							○	○

移籍をしても参加できる大会はいずれか1大会のみ

全国へ繋がる大会について

○競技者は全国へ繋がる大会(選手権)へは1つのみしか参加できません。(オールジャパンは除く)

○全国へ繋がる大会の競技者のエントリーはその大会の県予選の初戦までに登録を完了させなければなりません。

大会の認定・公認について

- 今までの様々な業種形態が集まって独自で行っていた大会を引き続きサポートしていくために「大会の認定・公認」制度を整えて行きます。
- 社会人連盟への登録が前提で、登録されたチーム間で行う大会をサポートします。
- 過去の事例
 - 鉄道会社大会
 - 自衛隊大会
 - 医科歯科大学
 - 郵便局大会など